

○経済産業大臣賞

受賞事業	県内支援機関の共同によるアントレプレナーシップ醸成からベンチャー企業の創出・育成までのシームレスな支援体制の構築
受賞者名	公益財団法人石川県産業創出支援機構
選定理由	<p>平成 19 年度より県内外の革新的ビジネスプランを有する者を認定して集中的に育成・支援する制度を継続的に実施し、随時制度を改善しながら大きな成果を上げている。認定者には①補助金の交付②インキュベート施設の無料提供③融資の特例措置④創業支援アドバイザーによる伴走など集中的な支援を行っている。また、アントレプレナーシップを醸成し起業家の裾野拡大を図るため、平成 28 年度より女性に対して先輩起業家を交えたセミナーや小規模座談会を開催しているほか、平成 30 年度より学生等に対して起業をテーマに気楽に集えるイベントを毎月開催している。これらの事業を一体的に実施することにより、持続的に起業家を生み出すことを目指している。</p>



○文部科学大臣賞

受賞事業	大学の研究成果等を活用した中小ものづくり企業の発展に貢献する事業(全国規模の鋳物関連中小企業広域ネットワーク(鋳物シンジケート)の構築および支援)
受賞者名	国立大学法人室蘭工業大学
選定理由	<p>我が国の鋳物産業は、中小企業が多く、原料高、人材不足、エネルギーコスト増という厳しい環境に置かれているが、製鉄設備における鋳鉄による耐熱耐摩耗部品など、特殊な鋳物については、川下企業からのニーズがある。このような環境下で室蘭工大が開発した成果を中小企業が活用する新しいビジネスモデルを構築した事業である。製品の品質保証については大学が保証し、大量発注についてはネットワーク(鋳物シンジケート)で対応する仕組みであり、参加企業の技術力及び収益力の向上に寄与している</p> <p>このような、全国各地に集積する中小企業中心の伝統産業分野に対して大学の技術を活用した生残り策を提供する取組みは、地方国立大に求められる地域貢献活動としても高く評価できる。</p>



○農林水産大臣賞

受賞事業	みやざきフードビジネス相談ステーション
受賞者名	公益財団法人宮崎県産業振興機構
選定理由	<p>「みやざきフードビジネス相談ステーション」では、食に携わる事業者のためのワンストップ相談窓口として、宮崎県の豊かな農林水産資源を背景とした6次産業化・農商工連携、商品開発など、フードビジネスの成長産業化を目指した取組みを推進している。</p> <p>専門家による相談対応とともに、デザイナーズバンクの設置、アンテナショップによるテストマーケティング、海外向け展示会への出展支援、商品ブラッシュアップ補助事業等を展開、また、他の関係機関との強力な連携を主導し、機会を逃さない支援を推進している。現在、ステーションの相談件数は、毎月100件に上り、数々の新規事業・新商品の創出やブラッシュアップ等により宮崎県のフードビジネスの大きな伸びを支えている。</p>



○全国イノベーション推進機関ネットワーク会長賞

受賞事業	ふくいオープンイノベーション推進機構
受賞者名	公益財団法人ふくい産業支援センター
選定理由	<p>地域技術を生かしたイノベーションを促進し、将来有望な事業の創出を支援するため、県内企業、大学・高専、公設試、産業支援機関、金融機関などの産学官金が一体となって研究開発から販路開拓まで支援する機構を設立。研究者と企業とのイノベーションリサーチ交流会の開催、研究人材データベースの構築、大学等の有識者で構成された企画検討会による研究課題の設定などにより革新的な研究、製品開発、事業化を推進している。特に福井県独自の炭素繊維技術（開織技術）を県内企業に移転し、航空宇宙・自動車分野等への進出を加速している。</p>



○一般財団法人日本立地センター理事長賞

受賞事業	水産加工業の新たな発展に向けた伴走型支援の展開
受賞者名	公益財団法人みやぎ産業振興機構
選定理由	<p>東日本大震災で壊滅的被害を受けた水産加工業の競争力を高め、「強いものづくり産業」に変革させることを命題とした伴走型の支援事業である。震災前から人手不足や就労環境、さらには収益面の課題を有していた水産加工業に対し、製造業では当たり前の「トヨタ流カイゼン」を導入し、企業の基礎体力強化に取り組んだ。この結果、生産性向上や現場改善のほか、経営者・社員の意識変革や人材育成など、企業力向上の効果が現れている。また、県内各地の19団体と連携し、カイゼンや衛生管理、商品開発など幅広いテーマで研修活動を展開することにより、このプログラムが広範に利用されている。水産加工品の需要拡大は島国日本としては重要な課題であり、それを加速するための支援活動として高く評価できる。</p>




○優秀賞(2件)

受賞事業	女性創業応援チーム「シルキー クレイン」をはじめとした創業トータルサポート体制
受賞者名	群馬県信用保証協会
選定理由	「創業トータルサポート体制」として、金融(保証)と経営支援をパッケージ化した総合的支援を実施し、成果を上げている。経営支援には、「創業応援チーム」などの相談による支援、ガイドブック、セミナーによる支援、創業後のモニタリングなどによる伴走支援、ラジオ番組を使った広報による支援などを含む。特に女性職員のみからなる女性向け創業応援チーム「シルキー クレイン」の活動、同チームによる「ガールズ創業カフェ」の開催により女性の創業促進に成果を上げている。

受賞事業	「神戸開業支援コンシェルジュ」「神戸起業操練所」「100 年経営支援事業」による総合的な創業支援
受賞者名	公益財団法人神戸市産業振興財団
選定理由	神戸地域では、阪神・淡路大震災の影響もあって中小零細企業を中心に事業所数が大きく減少しており、起業しやすい環境づくりと着実な事業承継の推進が都市戦略の生命線となっている。当財団では、市内 7 機関が連携して創業を支援する「神戸開業支援コンシェルジュ」、ビジネスプランの固まった起業希望者等を会員とする「神戸起業操練所」、起業希望者と後継者不在企業をマッチングする「100 年経営支援事業」の 3 事業により切れ目のない創業支援を展開し、特に当財団が主導するコンシェルジュ事業では、当財団だけでも年間 100 件程度、連携 7 機関合計で毎年のべ 800 件程度の新規創業を生み出している。

○全国イノベーション推進機関ネットワーク堀場雅夫賞(2名)

受賞者名	竹井 智宏 氏 (一般社団法人 MAKOTO 代表理事)
選定理由	<p>竹井氏は、東日本大震災直後には復興支援に尽力。その後、一般社団法人 MAKOTO を設立し、東北全体に起業しやすい環境を構築する事を目指し活動している。同法人は、竹井氏の主導のもと、起業家エコシステム構築事業、ファンド事業、大学連携事業、地方創生事業等を展開して、地域の活性化及び復興の加速化に貢献。特に、福島県では日本初となる失敗経営者の再チャレンジ支援に特化した10億円規模のファンド「福活ファンド」を組成。その他、「東北グロースアクセラレーター」「TohokuRebuilders」など、東北地域の起業家育成プログラムも運営し、起業家支援団体としても大きく成長している。</p> 

受賞者名	好満 芳邦 氏 (公益財団法人くれ産業振興センター 常務理事)
選定理由	<p>好満氏は、広島県における産学官連携事業の草分け的人材で、県の産業支援機関在籍中にはクラスター形成に貢献したほか、多くのイノベーション創出事業の責任者としてコーディネート活動を実践した。その後、くれ産業振興センター設立時に同センター常務理事に就任し、今日に至るまでの12年間、ベンチャー支援、呉自社商品開発協議会支援(イノベーションネットアワード 2016 日本立地センター理事長賞受賞)等で研究開発とその事業化等の支援を主導し、支援した新事業・新商品による累計売上高は100億円を超えるとも推定されている。</p> 